

犬山城 四階（望楼）

犬山城は、この地域に富と安全をもたらした力と名声の象徴であり、城の周りに都市を成長させました。この証拠は、4階の望楼から見ることができます。町の格子状の通りは、城のふもとに配置されています。

12人の連続した成瀬氏の写真が壁に飾られています。成瀬正成（1567-1625）から始まる手描きの描写や成瀬正俊（1930-2008年）の写真は、一族が犬山を所有していた400年近くの時代の変化の証拠です。

印象的なレッドカーペットは成瀬正壽（1782-1838）によって敷き詰められました。バルコニーを囲む低い手すりは設計上の選択です。高いものは城の美観をそらすと考えられます。眺めは、春の桜、緑豊かな夏の緑、鮮やかな秋の色、珍しい冬の降雪など、一年中の美しさを表しています。